

# 第15回マチング・バトン・バトワークリング岡山県大会 審査規定 ～バトン・カラーガードの音部～

## 1. 審査内容

### (1) 作品完成度

①実 施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドロップやミスのない到達度の高い、完成された作品</li> <li>・個々の責任意識が高く、グループプレーや協調性の高い演技</li> <li>・グループとしての同調性</li> <li>・正確なポジションワークと困難度あるステージングの展開</li> <li>・リズムやタイミングの統一性、多様性</li> </ul>
②表 現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品のテーマを主張した、視聴覚の調和された表現</li> <li>・フロア、立体、空間によるステージングデザイン</li> <li>・ユニゾンやアンサンブル、ハーモニーのバランス</li> <li>・観客への作品アピールやショーマンシップ</li> <li>・プロジェクションや自信ある演技、リカバリー能力</li> </ul>

### (2) 全体的効果

①作品効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確なテーマとプログラムコンセプト</li> <li>・集団美が活かされた作品</li> <li>・創造的で独創的な多様性あるプログラム構成</li> <li>・視覚と聴覚の一体性</li> <li>・衣装やプロップの色彩、デザインと作品との調和</li> </ul>
②演技効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の理解、解釈</li> <li>・音楽の理解、解釈</li> <li>・バトンとポディーワークによるデザイン</li> <li>・フロア、立体、空間によるデザイン</li> <li>・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク</li> <li>・ミュージカリティ、観客への作品アピールやコミュニケーション</li> </ul>

### (3) パフォーマンス

①バトン トワーリング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バトンテクニックの正確さ、優秀さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・トワーリングの多様性、困難度</li> <li>・エフェクティブなバトンの使い方</li> <li>・集団演技の複雑性</li> <li>・トワーリングリズムと音楽リズムの調和</li> <li>・バトンとポディーワークやステージングの困難度ある組み合わせ</li> </ul>
②ポディーワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポディーワークの正確さ、優秀さ</li> <li>・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性</li> <li>・ポディーワークの多様性、困難度</li> <li>・エフェクティブな動きやアングル</li> <li>・集団演技の複雑性</li> <li>・ダンスリズムと音楽リズムの調和</li> </ul>

	・ボディーワークとバトンやステージングの 困難度ある組み合わせ
③ステージング	・ムーブメントの正確さ ・グループスタイルやリズム、タイミングの統一性 ・スムーズで困難度あるフォーメーションの展開 ・ポジションや方向、高低、遠近感によるフロアワーク ・フロアと立体、空間のステージングデザイン ・フロアデザインと音楽の調和 ・ステージングとバトンやボディーワークの 困難度ある組み合わせ

審査担当者と観点、持ち点

渡部 松代先生 作品完成度 10点 全体的効果 10点 パフォーマンス 15点

石川 眞義先生 全体的効果 10点

## 2. コンテストの部の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、大会運営に協力すること。
- (2) 各内容の5つの観点についてA～Eの5段階評価をし、  
Aが5点・Bが4点・Cが3点・Dが2点・Eが1点に  
換算し、その合計点を集計する。その後45点満点を100点満  
点に換算(20/9倍して、小数点以下四捨五入の整数値)
- (3) 100点満点中、80点以上を金賞、79点～60点を銀賞、  
59点以下を銅賞とする。
- (4) 今回は同一カテゴリーに複数団体のエントリーがなかったため  
審査員特別賞はない。

## 3. フェスティバルの部の審査

- (1) タイムオーバーによる失格はないが、申告時間を遵守すること。
- (2) 審査方法は、コンテストの部に準ずる。(評価あり、点数なし)
- (3) U-12の部、OPENの部最も優秀な団体にはフェスティバル賞を  
授与する。

※カラーガードの講評内容は

(1) 全体的効果 目良先生・石川先生

(2) ボディーワーク 渡部先生・石川先生

(3) カラーガードの技術 山崎先生・石川先生

とする

※すべての部門でICレコーダ審査を行う。